

裏路地探険

旧大屋町の中心地であった養父市大屋町大屋市場。名前の通り、かつては市場が開かれていた場所であり、商業の町として栄えてきた。天滝や大杉さんざき踊りで知られる西谷地域と、明延鉦山のある南谷地域の分岐点であることから、人や物が集まるターミナルとして発展していった。

定期市の始まりは定かではないが、大正の頃まで、道の両側に仮屋を建てて市が開かれたと言う。

6、7月に夏市、12月に冬市があり、盆や暮れ、正月の時期にも市が立った。昆布や塩マス、数の子などの海産物から、下駄や反物、鎌のような刃物類などの商品が売られた。商人が寝泊まりするたため、宿屋も軒あつたそう。

毎年の楽しみとして、行李を首にかけて地元の人が大勢集まり、



軒下を支える大黒天!?(上) とも手の込んだ格子窓(下)



カーブをかけた屋根のしつらえは職人技!!(下)



商店が軒を連ねた通りには、レトロな看板を残すお店や、つだつを掲げた旧家(左上)が今も残っている。大正頃まで定期市が立ち、その後、常設店ができていった。



村の旧境界上に佇む「六地藏(左)」や阿弥陀寺の参道脇にある「地藏尊(右)」など、大屋市場には3カ所に地藏尊が大切に祀られている。参道には、当地の蛇紋岩が所々に使われている。温石なので、昔は石を暖めて暖房具として使われた。



日枝神社(中)と天満宮(左)。鳥居が2つもあり、その理由は天満宮の氏神であった天満宮が、明治の中頃、同地に移ってきたことによる。秋祭りにはツバキの枝に当たりくじを付けた、「樺まき」と呼ばれる珍しい行事が残されている。

かつて定期市が立った大屋市場の町並み
虫籠窓に千本格子、うだつを掲げた旧家…
どこか懐かしい雰囲気漂う通りを歩く

町中は大いに賑わった。
「この定期市を元に、常設店ができるようになり、商品がいつでも買えるようになりました。役場や農協、映画館もあり、昭和30年代は特に賑わいを見せた時代です」とは、案内役の野崎啓生さん。

その繁栄ぶりを表すように、高台にある日枝神社と天満宮は立派な造り。祭りの際には氏子の心意気を示す長さ約14メートルもあるのぼり旗を掲げるそうで、「高齢化が進む今では旗を立てるのにひと苦労」と笑って話してくれた。

鳥居が2つもあるのは、元々隣りの山路地区の氏神である日枝神社の場所に、大屋市場の氏神である天満宮が移ってきたことが理由。天満宮の彫刻は招き猫の木彫で知られる地元作家・松田一戯氏の作品で、温かみのある雰囲気醸

至養父市街

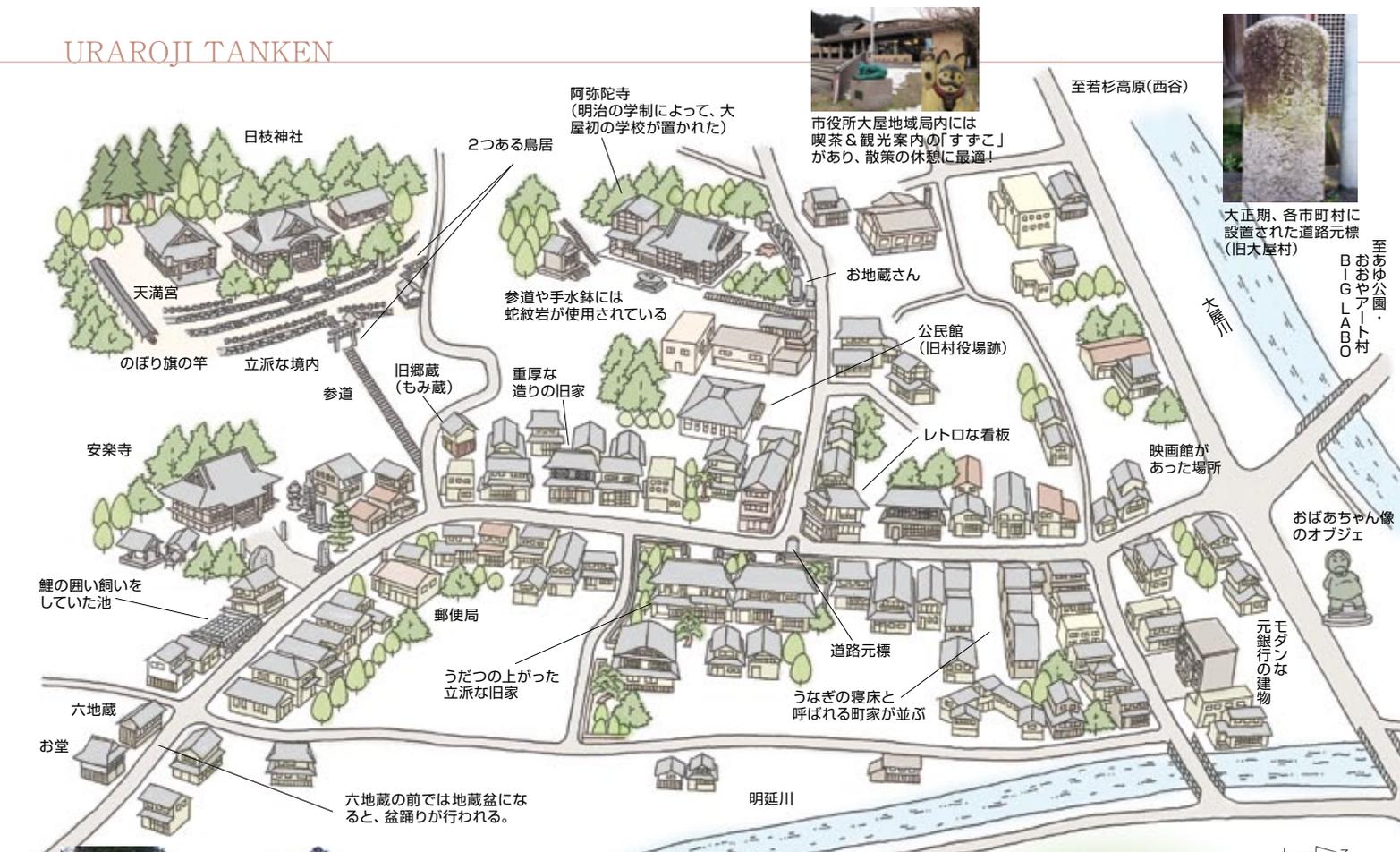
TAKEBA 竹田 しろのか
クリスタリゼ
KATASHIMA Online Shop
カタシマ 通販 検索

養父本店 兵庫県養父市上野1156-1 TEL 079-664-0351
丹波店 兵庫県丹波市柏原町柏原3083 TEL 0795-73-0851
豊岡店 兵庫県豊岡市若松町48-1 TEL 0796-24-0618
福知山店 京都府福知山市厚中町8 TEL 0773-24-2451

http://www.katashima.co.jp/

おおやで春めどり
樽見の大桜 4月上旬～中旬
新緑の天滝 白本の滝百選
ミスバショウ公園 4月中旬～5月上旬
養父市に遊びまわろう!
養父市観光協会 検索

養父市観光協会 TEL.079-669-1104
(養父市大屋地域局・喫茶すずこ内) お気軽にお立ち寄り、お問い合わせください!



市役所大屋地域局内には喫茶&観光案内の「すすこ」があり、散策の休憩に最適!



大正期、各市町村に設置された道路元標(旧大屋村)

至あゆ公園・おやアート村 BIG LABO



かつては凶作に備えるためのもみが保管されていた郷蔵(共同の倉庫)。現在はコミュニティ施設として改修されている。



氏神である天満宮には、地元の木彫作家・松田一戯氏によって、龍や獅子、猿(ばく)の彫刻が彫られている。さすがは木彫フォークアートの町!



呉服屋だったお家にはレトロな看板が残る

大屋富士

富士山のような山容からその名が付いたシンボリックな山。昔は遠足でよく登ったと言う。おやおやアート村BIG LABOから眺めると、富士山のような姿をよりはっきりと見ることが出来る。

●皆さんも「T2 裏路地探険」に参加してみませんか!!
 平成26年4月19日(土) 10:00~12:00
 「ほたるの郷を歩く」豊岡市出石町奥山
 *上記実施日の10日前までに、18ページに掲載の但馬の情報誌「T2」編集部まで、住所・氏名・年齢・電話番号・「T2 裏路地参加希望」とお書きの上、ハガキで申し込みください。開催当日は午前中、現地集合・現地解散となります。申込締切後、参加ご希望の方へ郵送にて案内を送付します。

し出ししている。
 通りにはうだつの揚がった重厚な古民家やレトロな旧商店、モダンな旧銀行の建物などが残り、当時の様子を今に伝えている。
 「うなぎの寝床」と呼ばれる、間口が狭くて奥行き深い民家が軒を連ねており、町並みを形成する大きな特徴となっている。
 大正7年に大火に見舞われたことから、道路幅が拡張され、通り沿いには現在も残る用水路が整備された。これらの費用は全て住民の負担だったそう。
 通りを歩けば、どこか懐かしい風情が残る大屋市場の町並み。明延川を挟んで、東側にそびえる大屋富士が、さらに町の景観に華を添える。静かな時間の中で、往事の息づかいが聞こえてきそう。

～共に生きる
この街を元気に～

但馬信用金庫

竹田祭り